

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀市立鍋島中学校
1 前年度 評価結果の概要	『学び合い』や開発的生徒指導が少しずつ浸透し職員の意識が上がった。同時に授業改善や指導のノウハウを含め、生徒指導が機能している。 学校便りや学校情報メール等で、学校行事に関する情報を昨年度以上に発信することで、地域・保護者・学校の連携を充実させることができた。また、「チーム快援」として、地域の行事に多くの生徒が参加できた。 学力向上については、定期テスト前に学習クラスマッチを実施し、生徒の意識向上、学習のやり方、点数アップなど一定の成果を得ることができた。また、小中連携でも指導力向上への取り組みを充実させることができた。 次年度は、さらに家庭と連携した学習習慣(家庭学習)の確立をめざす。また「道徳の教科化」がいよいよ実施になり、全体計画などを見直し豊かな心の教育の充実を図っていく。また、不登校対策、交通事故の防止、働き方改革も今後の課題である。
2 学校教育目標	『 粋な心で次世代を生き抜く生徒の育成 』
3 本年度の重点目標	○【『学び合い』による学力向上】『学び合い』で、「つまり～、たとえば～」の対話を広げ、仲間とのつながりの中で学ぶことの大切さを実感する。 ○【開発的生徒指導による個別適性化】生徒一人一人の実態に応じた開発的生徒指導にかかわる大人が、総ぐるみでその手立てを仕組み実践する。

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				中間評価		5 最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践『学び合い』活動	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	●教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	研究主任:野田、中島し
	◎志を高める教育(進路指導・キャリア教育の充実)	◎生徒全員が将来の職業について夢や希望を持ち、鍋島中学校卒業後の進路について具体的に考えることができる生徒が90%以上	●進路学習の充実(職業や上級学校高校に関する講話)、学びの楽しさ・価値付けを図る。	進路主事:西村 キャリア教育:中島よ
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ●生徒及び教職員の人権・同和教育への理解を深める。	●人権講演会(人権集会)や民主的な合意形成の取組を図る。 ●道徳科の授業づくりに関する校内研修の実施 ●地域貢献、ボランティア活動の推進	人権:同和教育;古賀ま 道徳:北原
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	●生活アンケートの月1回実施 ●Q-Uテストの分析と活用に基づく学級生活不満足群の改善 ●ネットトラブルに関する研修会の開催	生徒指導:内川
●健康・体づくり	○開発的生徒指導の深化	○基本的な生活習慣の確立と好ましい学習環境の確保 ●生徒主体による生徒指導の実践 ●生徒主体で行える生徒支援体制の確立 ○開発的生徒指導に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒80%以上	●全教育活動における、「学び合い(言語活動)」を取り入れた開発的生徒指導の推進 ●開発的生徒指導に係る研修会の実施	生徒会:内田、汐待 (内川)
	●望ましい生活習慣の形成	●職員研修を行い、職員の危機管理意識を高め、緊急時対応ができるようにする。 ●保健だよりを月1回以上発行 ●規則正しい食事や睡眠時間の確保など、望ましい生活習慣の意識づけをし、行動変容を促す。アンケートでは、睡眠時間が7時間未満である生徒が45%よりも減少させる。	●職員研修を年2回以上実施し、配慮を要する生徒の共通理解や心読解手法 ●アンケートやチェックシートを活用して、生活習慣の傾向を把握。集計結果を活用し、掲示物や保健だよりで生活の改善機会をつくる。 ●熱中症やインフルエンザの予防を保健だより等で指導。感染症流行時には症状や予防方法を周知し自己管理の推進	養護:井田、古川
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●安全に関する資質・能力の育成	●児童生徒の交通事故を10件以下に抑える。	●アンケートやチェックシートを活用して、生活習慣の傾向を把握。集計結果を活用し、掲示物や保健だよりで生活の改善機会をつくる。 ●年に1回交通安全教室や防犯教室を開催する。開催時には、警察署や消防署と打ち合わせを行い内容を検討する。	安全:三好
	○不登校対策	○昨年度の不登校生徒の割合(4.9%)から減少 ●教育相談部会等を活用し、教職員や小学校との連携を密にしていく。	●日頃の観察や声かけ、教育相談活動を行う。 ●道徳や学活などの授業やカウンセラー講話などを通して知らせる。 ●校内教育相談部会を利用して情報を共有し、生徒連への適切な支援対策を検討し、実施する。 ●専門家や専門機関と連携を密に。本人や保護者との面談	教育相談:山口
●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減・各分掌担当者間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進する。 ●教職員の時間外勤務について、教育委員会規則に掲げる上限を遵守し1か月当たり前年度比10%削減	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減・各分掌担当者間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進する。 ●教職員の時間外勤務について、教育委員会規則に掲げる上限を遵守し1か月当たり前年度比10%削減	●校務サーバー上で各分掌担当者が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。 ●合意形成による意思決定活動を生かし、よりよい業務遂行に努める。	教頭
	○部活動の負担軽減	○県や市、校内の部活動規則を遵守100% ●計画的な休業日の設定と実施90%	●管理職の指導と声掛け ●平日1日、土日いずれか1日の休業日の徹底 ●複数顧問制を活かした指導の工夫により、時間外勤務時間を減らす。 ●定時退勤日の設定と実行	副校長

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		主な担当者
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
○特別支援教育	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	●保護者の理解・同意のもと、個別的教育支援計画、個別の指導計画を作成し、支援を要する生徒一人ひとりの支援にあたる。(情報の提供、学年・学級での支援方法の確認 ⇒ 全職員で共有する) ●定期的に校内支援会議を開催する。	主任:野北
○地域連携	○ふるさと学習、チーム快援、各種たより	○各取組ののべ生徒の参加率を60%以上 ●アンケート結果で満足度80%以上	●「ふるさと学習」を通じて、地域の人たちとの交流を図る。 ●ボランティア活動(チーム快援)の活動を通じて、地域の一員としての自覚を深めさせる。 ●学校・学年・学級だよりを活用し、行事や学校の取り組みについて保護者や地域に広く知らせる。	主幹:中尾き
○小中連携	○小中連携 ○教育課程の工夫改善	○職員の小中連携理解度80% ●教育課程実施率90%	●出前授業や体験入学を通して、小学生に中学校の授業や部活動を体験させ不安を取り除く。 ●児童・生徒の情報交換などを行う研修会を定期的に行う。 ●身近な先輩の話を聞き、知りたいことを聞くことで、中学校への不安を解消する。 ●授業時数の確保	教務:八尋

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	.
--------------------	---